

市町村研修担当者に聴く

～第11回 海津市～

平成26年1月1日

研修センターでは、「市町村自らの手による自らの研修実施」という基本理念のもと、各種研修機会の提供のほか、研修情報の提供、市町村等の自主的な取り組みについて積極的な支援を行っていきたいと考えています。

ここでは、市町村等における実際の取り組みや研修業務に対する思いなどを紹介します。今回は海津市総務課の伊藤さんにお話を伺いました。

◆ 第1回研修担当者研修を受講した感想をお聞かせください。

4月に総務課へ異動し、第1回研修担当者研修を受講しました。一言でいうと、関西学院大学専門職大学院教授の石原先生のご講演は、衝撃的でした。



それまでいろいろな研修を受講してきましたが、どの研修もだいたい話の内容の先がみえるようなものでした。ところが、先生の講演は、多数の配付テキストがありながらも、それに捕らわれることなく、受講者の反応を見ながら自由自在に話を発展させるものだったからです。ユーモアもたっぷり、中身の濃い話を飽きさせることなく伝える話術には感服しました。帰庁してからも、部下にそのすごさを伝えたほど、印象的でした。

◆ 研修担当者として、今年取り組んだことを教えてください。

毎年職場の全体研修で接遇研修をやっていました。最近ではマナー化してきて、研修効果も疑問視されていました。何か新しい研修をやりたいと思い、石原先生にお願いしてみようと思い立ちました。Eメールで問い合わせたところ、すぐに快諾の返事が来て、1か月半後に開催の運びとなりました。

石原先生には、地方分権時代の自治体職員としてのモチベーション向上と、最近よく問題になるコンプライアンスについてのご講演をお願いしました。

先生からいただいた資料が大量で、全職員の分を用意するのは大変でしたが、毎回約100人ずつで、4回行うことができました。1回の講演は2時間半と長めでしたが、時折軽妙な冗談を織り交ぜながら楽しくわかりやすく説明する先生の話術に、どの職員も引き込まれていく様子がかげえました。



大変いい研修ができたものと自負しています。

また、当課の若手職員の提案により、12月にファシリテーター研修を開催する予定です(注1)。市町村研修センターでも評判の講師と聞いており、期待しています。

(注1) インタビューが行われたのは11月です。

◆ 市町村研修センターではどのような講座を受講されましたか。

いくつか受講しました。係長時代には条例の研修を受けています。また、市町村研修センターからの依頼により、センターで新規採用職員を対象とした接遇研修の講師をしたこともあります。

今年度は面接試験技法研修を受講しました。行政手続法も受講する予定です。いろいろと受講してみたい講座はあるのですが、都合を付けられなくてなかなか利用する機会がないというのが実情です。

- ◆ 積極的に取り組んでいる自己啓発などお聞かせください。

今は寒くなりましたので休んでいます。体力維持のために走ることに取り組んでいます。

また、自治体職員である以上、いろいろな知識を持つべきだと思い、毎月10冊ぐらい本を読んでいます。分野は特に問いません。結構凝り性で、世間で話題になる時事問題や、自分で気になることがあると、まとめて何冊も読みます。

- ◆ 部下の〇さんに伺いました。日頃の伊藤さんについてお聞かせください。

昨年は国体推進室で、大変重圧のかかる激務をこなしてみえたようです。4月からこちらに異動になりました。噂はかねがね伺っていましたが、その通りバリバリ仕事をこなす上司です。

毎日笑顔が絶えず、仕事を要領よく効率的に進めます。私たちへの指示も的確で無駄がありません。部下にとっては、安心して働くことのできる頼れる上司です。



- ◆ 最後に、伊藤さんの夢をお聞かせください。

研修担当者としては、費用対効果を考えます。研修を受けた職員が、それに見合った技能を身につけることを、常に念頭に置いています。こちらへ異動した当初は、近隣の市町村の研修内容を調べ、その内容を精査しました。そして去年までこちらにはなかったものを、多く取り入れました。

今の私は中間管理職という立場にいます。第一線で先頭に立って働き、いつでも若い職員の手本になれるよう、自己啓発はずっと続けていきたいと思っています。